

# 上高地へ登山電車の導入 ・世界遺産への登録を目指して・

日本自然村協会理事長 中山 幹雄さん

はじめに

上高地の環境資源は松本市民のものだけでなく、日本国民全体のもの、さらには世界の人々の共有の財産であり、スイスのピラトゥス山の登山電車を参考に環境にやさしい登山電車の導入などを提言する。

現状の問題点

上高地への行程は沢渡からマイカー規制となっており、集客力に大きな問題となっている。

上高地周辺は宿泊施設が少なく、貴重な観光客を他県や、他地域に奪われている。

岐阜県側からは穂高連峰が一望できるケーブルカーがあり、松本側の観光資源が半減している。

提案要旨

沢渡から坂巻温泉、中の湯温泉を通り上高地のバスターミナルまで登山電車の導入をはかる。  
沢渡・中の湯に二大温泉宿泊施設を建設する。(5千人規模の宿泊可能な温泉地とする)  
沢渡にマイカー、観光バス用の駐車場を建設する。

沢渡付近に大規模な温泉ボウリングを行い宿泊施設へ供給する。

効果

松本・上高地のブランドで世界の観光地として大幅な集客力が期待できる。

上高地の良好な環境を子々孫々まで残すことができる。

登山電車の建設・大規模温泉施設の建設などによる経済効果

劇団ふるさとときやらばんプロデューサー 花岡 由雄さん

私は、昭和28年里山辺で生まれた。この年の前後、昭和の大合併があった。当時家の周りは、田んぼ、桑畑、山等々、子供心にそんな山辺の風景の素晴らしさを知る由もなかった。今や日本中どこに行っても同じような街並みだが、山辺には、当時の素晴らしさが今もいたる所に残っている。

昭和45年松工入学、野球に夢中になり北信越大会にも出場したが、力量のなさも解っていた。当時多くの若者がそつであつたように、私も都会に憧れ、ふるさとを後にした。

私は、昭和58年、東京でミュージカル劇団「ふるさとときやらばん」の創立に参加した。劇団は

と、地元雇用の大幅な拡大が期待できる。

完成後は乗鞍を含め上高地全体を世界遺産の登録への期待ができる。

その他

建設母体は第三セクター方式とし、松本市・長野県・国の参加を求めるとともに松本電鉄など地元企業や、スポンサー企業の協力を求める。

(旧安曇村島々出身・練馬区在住)

## 地域力は21世紀の力

花岡 由雄さん

今までに47都道府県千100近い自治体で公演をしている。松本市でも何回か公演をさせていただけ。劇団を地元と呼んで下さる方々の多くは、地域を背負い、時代を背負い、社会を背負って生きている。そんな方々と共に生きていると、今、地域に何が必要なのか学ばされる。そんな中で、次のようなことを考えた。

1 松本市も平成の大合併を行った。行政がこの合併で未来を拓く推進者としていちから出発できるか。市民、企業、首長、議会、職員がより連携し、合併力として推進してゆく。

2 限界集落などを生み出す「地域力」をいかに築いていけるか。

観光客が来たら、もてなしの心、挨拶ができる街等々、それを可能にするのが「地域力」だと考える。道普請、川普請、山普請、伝統、行事、習慣、祭り、隣組、消防、老人会、地域に息づいているコミュニティをいかに活性化するかだと考える。この地域力が安全で安心できる街を生み出し、地域が子育てできる力となり、高齢化社会に対応できる力になると考える。

3 地域力を生かし、認可地縁団体等を設立し、地域性を生かした集落、コミュニティ単位での収益活動も行っていく。地域の特性を生かした収益活動は子どもから老人まで参加できる。例えば、市道の清掃など企業に発注せず沿線集落に発注する。初めは行政の援助があるだろうが、恒例化する中で、道に対する愛情も生まれる。何よりも集落に利益をもたらす。

使用前、使用後の報告書を参加者が作る。そんな報告書の行間に地域力は潜んでいるのかも知れない。

## 「その他」も

ご紹介した「ふるさとメッセージ」以外にも、

・平成の大合併で、由緒や歴史のある地名が失われる例が多い。ふるさとの地名を大切にしたい。

・松本市や周辺地域には素晴らしい観光資源があるが、全体的にPR不足ではないかと感じる。ホームページ等を通じて、また、広域的視野にたつてPRにつとめて欲しい。

・信州でスキーやテニスなどのスポーツを楽しみたい、そば打ち体験がしたい、温泉も楽しみたい。様々なニーズに応えられる情報発信を。

・長野県の先生は真面目すぎるのでは？私の住む、小金井市では、小学校の夏休み・冬休みに宿題らしい宿題がないにもかかわらず、中学の学力テストが全国一です。参考になるのでは？

・長野県内の市町村では、東京会などのように市町村出身者を対象に、市政の現状や観光情報を提供する機会を設けています。松本市も参考にしたい？

他の提言をいただいています。ご協力ありがとうございました。



# 愛する松本へふるさとメッセージ

## 松本のまちづくりへの提案

著述業 藤岡 筑邨さん

市民・観光客ともに身も心もゆたかな気持ちになることが出来る町であってほしい。

駅前整備・こたつについている北の地下道は使う人ほとんど無し。真中にトイレとは。タクシー乗場が中心みたい。車優先で信号待ち長く、すぐに変わるので駆足だ。市の玄関らしくゆったりした憩の場にしたい。

駅西口の拡張・駅の一方の玄関になっていない。安曇野・北アルプスへの出発点として、バス乗場・案内所・食堂・売店など作って利用者を多くすることが市の発展に役立つ。

松本城の本格公園化・観光の目玉にしては貧弱。通路が主の小公園だ。お城関係の施設を建てたり、博物館前の広場を含めて、市の中心の公園らしくしたらどうか。お濠を整備し、そこに貸しポートを浮かべるのも若者に喜ばれる。お城に履物を持って登るのは何とも味気ない。城山の開発・城山は市民のいいこの場・観光地として充実さ

せたらどうか。例えば文学碑

いくつがあるが(へてるてる坊主の碑や久女の墓を含め)松本ゆかりの人の文学碑を計画的に建てて特徴を出すのもいい。久女句碑をたてたが、手続きが面倒だったし、補助協力もなかった。

商店街を、この近くに(江東区)砂町銀座という商店街があり、数百米にわたり食品中心の店がひしめき、たいていのものは買える。町の活力の中心の感がある。松本にはそういうものがない。店は分散している。縄手はやや似ているが、狭い規模が小さい。しかも中劇跡にマンションが建てばちくはぐになつてしまふ。たとえば裏町はずれから縄手をふくみ、六九町までを商店街として人が集まる処としたら。市民の購買意欲をそそり、活性化に役立つ。

観光の宣伝・観光の対象にするには宣伝整備が足りない。宣伝が巧ければ、ちょっとしたもので観光の対象になつてしまふ。城下町だけに調べたらたく

さんあるだろう。調査し、整備し、宣伝して魅力をもたせることだ。新村にものぐさ太郎の遺跡があるのは余り知られていない。松本サリン事件で冤罪になった河野家だつて反省の意味で見る価値が出て来る。駅構内か駅前あたりに観光施設を一覧出来る施設を作つて場所や内容の説明をしたり、バス・タクシー・掲示などで、観光客が見たいという気持ちにさせることだ。

うまいもののPR・美味しい食べ物があるのがその町の魅力である。長野に比べ松本はそれが多いといわれる。それを市民は勿論、観光客が大いに利用するように市も協力したらどうだろう。中華料理のうまかつた竹

の家はなくなつてしまつた。田楽の木曾屋、フランス料理の鯛萬、そばの弁天・こばやし、馬刺しの三河屋、菓子の開運堂など松本らしい店として大切にしたい。木工とか民芸品なども積極的に宣伝して欲しい。

中劇もそうだが、勧銀を保存する運動もともに参加したが、結局こわすことになつてしまつた。こわしたらもう取り返しがつかない。城下町として古きよ

きものを大切にし、そこへ新しいものを加え、新旧調和のとれた町づくりをしてもらいたい。倉敷とか高山とか先例がある。

ハイキングコース・名所めぐりコースの設定・整備・市民にとつても観光客にとつても健康

「松本市」への意見、提言、とのことですが、大阪で生活して感じることは、松本市はもちろん長野県自体が、関西人にはあまりなじみがないということ。何かの折に「出身が長野県、あるいは安曇野」と説明しても、関西人にはあまりイメージが湧かないように、「ああ、そう」で終わつてしまつことがほとんどです。

これが、東京ですと、「すぐくきれいで、いいところ」というように明確な印象を持つている人が多いのですが、関西ではスキーをする一部の人が白馬などを知っているくらいで、ほとんどの関西人には関心の対象になつていないように思います。

松本市には一年間かなりの数の観光客が訪れると思いますが、関西以西の比率はどれくらいなのでしょう。か。

生まれ育ち、そして県外に出

とかねたものとして必要。歩いてみたいという魅力をもったコースを決め、しっかり標示し、道路も整備する。安曇野まで伸ばしてもいい。

その他、健康・保健センターの設置なども考えたらいい。

「信州・松本のアピールを関西でもっと

ている人間が外から見ますと、長野県はほんとうにすばらしいところ。特に、夏の大阪は異常な蒸し暑さですから、長野県の夏の涼しさは、それだけでも十分観光客をひきつける要素だと思えます。

「信州・松本」という素晴らしいイメージを、関西でももっとアピールして欲しいと感じております。

蛇足ですが、弊社が入居しているビルの近くに某県の物産店があります。一階の路面店で、ほんの3坪程度の店ですが、地元の特産品(野菜から工芸品までを県が委託販売しているようです)をいろいろ売っており、一日の来店数は20・50人とか。自然志向の昨今から、また、同県出身者など根強い固定客がいるようです。「県」や「市」をPRするのに、こんな方法もあるな、と思いました。

「信州・松本」という素晴らしいイメージを、関西でももっとアピールして欲しいと感じております。

蛇足ですが、弊社が入居しているビルの近くに某県の物産店があります。一階の路面店で、ほんの3坪程度の店ですが、地元の特産品(野菜から工芸品までを県が委託販売しているようです)をいろいろ売っており、一日の来店数は20・50人とか。自然志向の昨今から、また、同県出身者など根強い固定客がいるようです。「県」や「市」をPRするのに、こんな方法もあるな、と思いました。

生まれ育ち、そして県外に出